



中村俊定文庫
文庫 18
991



金田氏龍奉塔の合

明月や海の夜まぐらつくとくしん 元辰

月の夜や拂てまぐらなき如の雲 翠山

名月や風を寺川静て散る柳 政風

草の戸より外記をらるる月夜 元辰

月の公のしつ勢掛るをくま 無敵

ま那板より鳴くくのもや月弦 松下

枯と樹とをくた物ありきの月 鳥鳴

明月やまをくことして氷さじし 其氷

作磨せとく廣たきりし月の友 其友

能い月よ長をぬか雪の仲る哉 渭流

東る人を小鶴よまけて月見え 樹守

名月やわらるるまぐ見だき海のう 柳秀

明月に走らハのうに帰らむほし 兼角

川園のくせをわらじえり月夜に 梯石

覆もしぬれ志ありお月の以風 栗風

明月やこときひたハ柳の末 翠羽

物達の奈良は見えあり月夜に 如龍

雲のぬ月やけり遠之上 不靈

さきの月目くすの酒磨り友時 塚月

山の月 移るゝるありもなかりあり 百花

名月やかきくてももつるゝあふま 渭谷

あつまるる月になむ止む本奥の文

け 湯の中よりもさのや穂の月 阿直

松月あふあふ人よ官礼あり 元明

名月や人の田畑ととくくわく 枝那

月の入るかこいふり勢勢机りき 益進

明月や川流りなるたの末 去風

涼の人き徳い酒をぬりふの月 良世

名月に見寄るのわら喜冬 元山

明月や雑魚のこけとけと 元秀

宿をまゐり出くかき月ふらしたり
あき 注夕

帰しふえおの階のちまうたの
月 桂葉

母虫の足ふこころる月夜に
文雪菴

名月や膝かきおの桂葉
今日店

田の穂と環りいおの
月えん



